

# Slavica Kiotoensia

第3号

## 論文

岩間 成美

プロツキーの詩と散文における「目」の役割と「私」の在り方について

山本 悠太朗

《世界の終わりの後》の詩再考

——アンナ・シヴィルシュチンスカ『私はバリケードを築いていた』を巡って

高田 映介

チャーホフの「新しい生活」の表象について——『いいなずけ』を中心とした試論

松原 繁生

「大審問官」とその周辺におけるキリストとキリスト教会の峻別をめぐって

——『ロシア通報』への書簡からの考察

山口 宗忠

アンドレイ・タルコフスキー『鏡』試論——一人称の映画を目指して

三宅 賛

ショスタコーヴィチの場合——アンチ・ワーグナーの試みとしての『鼻』

池澤 匠

ウクライナの言語政策関連文書における「国家語」の定義と運用について

## 書評

田村 太

Vladimir Alexandrov, *To Break Russia's Chains: Boris Savinkov and His Wars Against the Tsar and the Bolsheviks* (New York: Pegasus Books, 2021)

論文題目一覧（令和4年度）

執筆者・編集委員・編集協力紹介

編集後記

京都大学大学院文学研究科  
スラブ語学スラブ文学専修 年報  
2023

目次

論文

岩間 成美

プロツキーの詩と散文における「目」の役割と「私」の在り方について 1

山本 悠太郎

《世界の終わりの後》の詩再考

—— アンナ・シヴィルシュチンスカ『私はバリケードを築いていた』を巡って 31

高田 映介

チェーホフの「新しい生活」の表象について

—— 『いいなずけ』を中心とした試論 59

松原 繁生

「大審問官」とその周辺におけるキリストとキリスト教会の峻別をめぐって

—— 『ロシア通報』への書簡からの考察 81

山口 宗忠

アンドレイ・タルコフスキー『鏡』試論 —— 一人称の映画を目指して 107

三宅 賛

ショスタコーヴィチの場合 —— アンチ・ワーグナーの試みとしての『鼻』 142

池澤 匠

ウクライナの言語政策関連文書における「国家語」の定義と運用について 160

書評

田村 太

Vladimir Alexandrov, *To Break Russia's Chains: Boris Savinkov and His Wars Against the Tsar and the Bolsheviks* (New York: Pegasus Books, 2021) 190

論文題目一覧(令和4年度) 198

執筆者・編集委員・編集協力紹介 199

編集後記

Slavica Kiotoensia  
Annual Report of Department of Slavic Languages and Literatures  
Graduate School of Letters, Kyoto University vol. 3 (2023)

**Содержание / Contents**

**Статья / Article**

ИВАМА Наруми

Лирическое «я» и мотив «глаз» в стихотворениях и прозе И. А. Бродского 1

Yutaro YAMAMOTO

A reconsideration of the poem “After the End of the World”: with a focus on Anna Świrszczyńska’s “Building the Barricade” 31

Eisuke TAKADA

Chekhov’s Depiction of “New Life”: A Study of “Betrothed” 59

Shigeo MATSUBARA

The Christian church is strictly distinguished from Jesus Christ in and around “The Grand Inquisitor”: thoughts from Dostoevsky’s letters to the “The Russian Herald” 81

ЯМАГУЧИ Мунэтада

Опыт анализа фильма А. А. Тарковского «Зеркало»: стремление к фильму от первого лица 107

Akira MIYAKE

The Case of Shostakovich: “The Nose”, as an Experiment on Anti-Wagner 142

Takumi IKEZAWA

The Meaning of “State Language” in Ukrainian Language Policy Documents 160

**Рецензия / Book Review**

TAMURA Futoshi

Vladimir Alexandrov, *To Break Russia’s Chains: Boris Savinkov and His Wars Against the Tsar and the Bolsheviks* (New York: Pegasus Books, 2021) 190

Список названий трактатов 2022 198

Список авторов, редакторов и сотрудников 199

Послесловие редактора

### 執筆者紹介(五十音順)

池澤 匠	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程
岩間 成美	文学研究科修士課程
高田 映介	神戸大学大学院国際文化学研究科専任講師
田村 太	文学研究科博士課程
松原 繁生	ロシア文学研究者
三宅 賛	文学研究科修士課程
山口 宗忠	出版社勤務／映画研究
山本 悠太郎	人間・環境学研究科博士課程

### 編集委員(五十音順)

佐藤 昭裕	京都大学名誉教授
中村 唯史	文学研究科教授
服部 文昭	京都大学名誉教授
堀口 大樹	人間・環境学研究科准教授

### 編集協力(五十音順)

岩間 成美	梅津 紀雄	エフゲーニー・ウジーニン
大平 陽一	岡野 優那	小椋 彩
北見 諭	清沢 紫織	郡 伸哉
齋須 直人	坂庭 淳史	深龍 雄太

## 編集後記

子供の頃、遠い海の向こうの戦争や状況によって周囲の人々が歡喜したり絶望したりするのを、間近に見ることがありました。私は、繭のようにちっぽけで良いから、自分のまわりに何のものにも揺るがされない場を作り、中に籠もって生きていこうと思いました。それからの幾度かの岐路でも文学を選択してきたのは、この夢の続きです。

けれどもいま痛感しているのは、外部を完全に遮断した場など、どこにもあり得ないということです。海の向こうのできごとは繭の中にも餌のように響いてきますし、考えてみれば繭は、その内にいる蚕ごと、やがて煮えたぎる湯に投げ込まれるものです。そうならないためには、好むと好まざるとに関わらず、その外と切り結んでいくより他にはないのでしょう。思えば私の子供の頃からの夢も、状況に対するひとつの反応だったのです。

ロシア軍のウクライナ侵攻開始から、やがて2年が過ぎようとしています。断絶や抑圧は急速に世界中に波及しつつありますが、『Slavica Kiotoensia』第3号をお届けできることをうれしく思います。本誌には今日の状況に取り組んだり、より普遍的に戦争や罪や責任の問題を扱ったり、対象やテキストに真正面から向き合ったりと、さまざまな論考が収録されています。忌憚ないご批評、ご提言をお寄せいただければ幸いです。

本号の刊行に至るまでには、多くの方々のご協力をいただきました。心からの謝意を表します。本誌は、編集・発行の主体は当専修である一方、執筆資格には厳密な規定を設けていません。投稿を希望される方は、下記奥付のメールアドレスにご連絡ください。(中村唯史)

\*本誌の電子版は、バックナンバーを含めて、「京都大学学術リポジトリ(KURENAI)」から閲覧可能です。

[<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/265953>]

---

### Slavica Kiotoensia 第3号

2023年12月15日発行

発行所

京都大学大学院文学研究科スラブ語学スラブ文学専修

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学文学研究科内

Tel: 075-753-2781 E-mail: [nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp](mailto:nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp)

URL: [https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/slavic\\_lang\\_lit/sll-top\\_page-3/](https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/slavic_lang_lit/sll-top_page-3/)

印刷所

中村印刷株式会社

〒601-8133 京都市南区上鳥羽藁田町 55

Tel: 075-682-7666 Fax: 075-682-7677

---

# Slavica Kiotoensia

vol.3

## Статья / Article

ИВАМА Наруми

Лирическое «я» и мотив «глаз» в стихотворениях и прозе И. А. Бродского

Yutaro YAMAMOTO

A reconsideration of the poem “After the End of the World”: with a focus on Anna Świrszczyńska’s “Building the Barricade”

Eisuke TAKADA

Chekhov’s Depiction of “New Life”: A Study of “Betrothed”

Shigeo MATSUBARA

The Christian church is strictly distinguished from Jesus Christ in and around “The Grand Inquisitor”: thoughts from Dostoevsky's letters to the “The Russian Herald”

ЯМАГУЧИ Мунэтада

Опыт анализа фильма А. А. Тарковского «Зеркало»: стремление к фильму от первого лица

Akira MIYAKE

The Case of Shostakovich: “The Nose”, as an Experiment on Anti-Wagner

Takumi IKEZAWA

The Meaning of “State Language” in Ukrainian Language Policy Documents

## Рецензия / Book Review

TAMURA Futoshi

Vladimir Alexandrov, *To Break Russia’s Chains: Boris Savinkov and His Wars Against the Tsar and the Bolsheviks* (New York: Pegasus Books, 2021)

Список названий трактатов 2022

Список авторов, редакторов и сотрудников

Послесловие редактора

Annual Report of  
Department of Slavic Languages and Literatures  
Graduate School of Letters, Kyoto University

2023